

# MLB東京開幕戦と松井秀喜選手バット・バッティング手袋

2025年3月、MLBの開幕戦が東京ドームで開催され、大きな話題を呼んだことは記憶に新しい。ロサンゼルス・ドジャースには大谷翔平選手、山本由伸選手、さらには佐々木朗希選手、対するシカゴ・カブスには今永昇太選手、鈴木誠也選手と、日米の注目を集める日本人メジャーリーガーたちが一堂に会し、日本のファンの前でその勇姿を披露した。

MLB開幕戦の日本開催は、NPBで活躍し、惜しまれつつアメリカに渡った日本人選手たちが、メジャーリーガーとして日本のファンの前で公式戦を行う、貴重な機会にもなっている。このような注目度の高い舞台に初めて立ったのは当時29歳、MLB2年目の松井秀喜選手であった。

2004年3月30日・31日、ニューヨーク・ヤンキースとタンパベイ・デビルレイズ(当時)による開幕戦は、東京ドームで開催された。MLBの公式戦はすでに2000年に日本で行われていたが、2004年は、

日本人選手がメジャーリーガーとして初めて日本の地でプレーをする試合になるため、多くの注目を集めた。MLBのユニホームに袖を通した松井選手が、母国のファンの前でプレーをすることは、連日の誌面をにぎわせ、試合当日は満員の観衆がスタンドを埋めた。

2連戦の第2戦では、松井選手が見事に本塁打を打ち、東京ドームは大歓声に包まれた。メジャーリーガーとしてキャリアを積みはじめた松井選手が、古巣の本拠地で放った一発は、今もなお多くの野球ファンの記憶に残る象徴的な場面となっている。

当館では、この記念すべき開幕戦の後、松井選手より寄贈頂いたバットとバッティング手袋を所蔵している(写真①)。これらの資料は、松井選手がMLBの舞台で活躍した姿を今に伝える貴重な証の一つである。

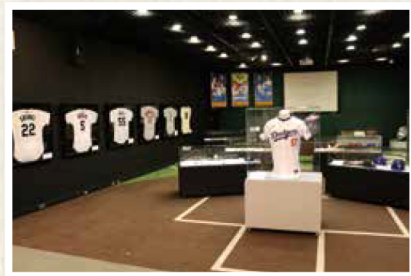
あれから20年以上が過ぎ、2025年の今まで、多くの日本人選手がメジャー

リーガーとして開幕戦に名を連ね、母国のファンの前に立っている。先人たちが築いた道は、後輩たちによってしっかりと受け継がれている。

公益財団法人 野球殿堂博物館  
学芸員 太田若葉



写真①: 松井秀喜選手バット、バッティング手袋



写真②: 特集展示「大リーグ(MLB)日本人選手とレジェンドたち」期間2025年3/1～6/29

現在、博物館ではイベントホールにて、MLBで活躍した選手たちのユニホームや用具を展示中です。ヤンキース時代の松井選手ユニホーム(レプリカ)も展示しております。ぜひご来館いただき、世界で活躍を遂げた選手たちの息吹を、間近で感じていただければ幸いです。